

計画事業番号	00080	事務事業名	福祉バス運行事業	担当部署	保健福祉部福祉課	電話	2134
--------	-------	-------	----------	------	----------	----	------

【基本情報】

事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	根拠法令等	北広島市福祉バス運行要綱				
事務事業開始年度	平成4年	個別計画等					
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第 1 章)	支えあい健やかに暮らせるまち
	(第 2 節)	地域福祉の推進
	(施策 2)	地域福祉活動の推進
2 対 象	高齢者、障がい者及び福祉関係等の団体	
3 目的と内容	高齢者の生きがいづくりや障がい者の社会参加、福祉団体の育成を促進し、福祉の向上を図るため、福祉バスを運行する。 車いす用リフトを備えた市所有の車両1台(運行管理は委託)と、夏期(5～10月)増車用の借上バス(借上バス1日原則最大2台)にて運行する。	
4 実施内容 (手 段)	28年度まで	(1)市有福祉バスの運行管理を委託。 (2)バス借り上げを行う。(5月～10月)
	29年度	昨年度と同様に下記の内容を実施。 (1)市有福祉バスの運行管理を委託。 (2)バス借り上げを行う。(5月～10月)

【事業の計画・実績】

平成28年度		平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画	実績	計画	計画	計画
福祉バスの貸出し	福祉バスの貸出し 運行日数 延べ367日	福祉バスの貸出し	福祉バスの貸出し	福祉バスの貸出し

【評価結果・評価コメント】

総合判定		平成30年度に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	高齢者団体等のニーズが高く、高齢者の生きがいづくり、障がい者の社会参加や福祉団体の育成の促進、福祉の向上を図るため継続していく。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			15,498	16,457	17,472	17,425	
事業額	直接事業費	国支出金	0	0	0	0	
		道支出金	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	
		その他特財	1,800	16,457	17,472	17,425	
		一般財源	13,698	0	0	0	
	① 合計	15,498	16,457	17,472	17,425		
人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	② 人数(年間)	0.00	0.08	0.00	0.08	0.00	0.08
	③ 1人当り年間平均人件費	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500
	④ =②×③	0	360	0	360	0	360
総事業費①+④			15,858	16,817	17,832	17,785	

【評価指標】

指標名		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
活動指標	①年間運行日数	目標値	300	300	300	300
		実績値	367			
	②ふれあい温泉対象施設行き 臨時運行分利用者数	目標値	1,800	1,800	1,800	1,800
		実績値	1,076			
③	目標値					
	実績値					
成果指標	①利用延べ人数	目標値	9,000	9,000	9,000	9,000
		【利用延べ人数】 実績値	9,008			
	②利用者一人当たりのコスト	目標値	1,950	1,950	1,950	1,950
		【総事業費/利用延べ人数】 実績値	1,721			
③	目標値					
	【指標の定義(算式等)】 実績値					

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
妥当性 ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	市がバスを貸し出すことにより、直接的に高齢者の生きがいがづくりや障がい者の社会参加、福祉団体の育成に寄与しており、妥当な事業である。
達成度 ・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	ふれあい温泉対象施設行きの運行については、平成26年度以降ほぼ同様の利用者数で推移しており、利用促進を図っていく必要があるが、一般団体の利用者数は増加傾向にあり、成果はあがっている。
成果向上 ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	一般団体及びふれあい温泉施設行きの利用者数について、引き続き利用促進を図るための周知等を実施していく。
経済性 ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	2	平成17年8月から一部受益負担の導入を行っているが、利用者数がある程度増加傾向にあることもあり、将来的に使用料の見直し等も含め、成果を落とさずにコストを削減するための検討を行っている。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	<input type="checkbox"/> 法律の義務付けあり	<input checked="" type="checkbox"/> 法律の義務付けなし
------------------------	------------------------------------	---

【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	<input checked="" type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 <input type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。
-----------------------------	--